

対象年度	令和 8年度							総合計画実施計画策定及び行政評価シート				
事務事業名	地域介護予防活動支援事業							予算事業名	地域介護予防活動支援事業費			
予 算 科 目	会計	04	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	介護保険法			
			03	02	01	1202	経常経費					
総合計画体系	みんなで支えあい 安心して暮らせる地域福祉を目指そう 高齢者が生き生きと安心して暮らせる地域づくり 介護予防の推進							事業の区分	主要事業			
								担当課係等	介護福祉課 長寿支援係			
事業期間	継続 (年度～ 年度)											
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
すべての高齢者が、介護予防の知識を身につけ、心身の健康に寄与する活動に取り組むことのできる環境をつくる。							平成18年4月介護保険法改正に伴い、高齢者の心身機能・活動能力・社会参加等の生活レベル低下による要介護度の悪化を予防する取り組みの強化として地域支援事業(介護予防事業)が施行された。					
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】					
【隔年で養成】 ①介護予防サポーター (養成後、育成支援) ・担い手を養成・育成していく ・高齢者サロンの運営を推進していく ②シルバーリハビリ体操3級指導士 (養成後、県からフォローアップ有) ・担い手を養成・育成していく ・通いの場における体操教室を推進していく							第1号被保険者、その支援のための活動に関わる者 【事業をとりまく環境の変化】 平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行う地域介護予防活動支援事業を実施している。その中で、介護予防の担い手を増やすことや継続的な活動支援が求められている。					
【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】				【令和10年度 事業内容】				
・介護予防サポーター養成 (隔年) ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援				・シルバーリハビリ体操3級指導士養成 (隔年) ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援				・介護予防サポーター養成 (隔年) ・介護予防サポーター育成 ・高齢者サロンの支援				

■ 事業費

		R06年度	R07年度			
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金	108	56			
	県 支 出 金	61	32			
	地 方 債	0	0			
	そ の 他	132	70			
	一 般 財 源	188	104			
歳 入 計 (千 円)		489	262			
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)	金額 (千円)	金額 (千円)			
	10 需用費	100	130			
	11 役務費	9	16			
	12 委託料	380	116			
歳 出 計 (千 円) (A)		489	262			
伸 び 率 (%)			-46.42			
備 考	総合計画60ページ 予算書294ページ					

令和 6年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R06年度	R07年度	R08年度
活動 指標	養成者数	人	目標	220.00	230.00	240.00
	介護予防サポーター、シルバーリハビリ体操指導士の養成講習会を実施する		実績	222.00	0.00	0.00
	スキルアップ研修会	回	目標	6.00	3.00	3.00
	介護予防サポーターの資質向上のためスキルアップ研修会を開催		実績	6.00	0.00	0.00
成果 指標	高齢者サロン参加者	人	目標	180.00	240.00	240.00
	介護予防サポーターが運営する高齢者サロンへの参加者		実績	115.00	0.00	0.00
	いきいきヘルス体操教室参加者	人	目標	11,000.00	11,500.00	11,500.00
	いきいきヘルス体操教室への参加者		実績	11,172.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	高齢者人口が増加する中、高齢者自身による介護予防活動を推進していく必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	法の趣旨に基づく事業であり、市が介護保険を適正に運営するために関与すべき事業であるため。
	手段の妥当性	A 妥当である	養成講習会には専門的な知識や技術を提供する必要がある、現在の手段は適切と言える。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	現在の職員定数から、効率的に実施していると言える。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	活動者はボランティアであり、受講を希望すれば参加できるため大きな偏りはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	シルバーリハビリ体操指導教室はコロナ禍以前の水準に回復している。高齢者サロンも再開することができ、参加者も徐々に定着してきたこともあり、今後も継続して実施していく。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	シルバーリハビリ体操指導教室はコロナ禍以前の水準に回復している。高齢者サロンも再開することができ、参加者も徐々に定着してきたこともあり、今後も継続して実施していく。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
事業を推進するためには、市民の力が重要である。活動者を募集しても、参加者が集まらないことや活動者の高齢化が課題に挙げられる。そのことから、市民への啓発が重要であり、市民の健康や介護予防への興味関心を高めていくことを意識し、事業に取り組んでいく。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
高齢者サロンを再開したことにあたり、活動を軌道に乗せ、継続的に開催できるよう介護予防サポーターへの支援を行っていく。シルバーリハビリ体操においては、継続的に活動ができるよう支援を継続していく。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
<input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置	
方向性の具体的内容 地域における介護予防・重度化防止のために重要な取り組みであるため、地域づくりの一つとして捉え、介護予防の普及・啓発やボランティア等の人材育成等を積極的に推進していく。	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
<input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	
管理課連絡欄	